第2節　成績・学力観

【「できるだけいい大学に入れるよう、成績を上げたい」54%、「将来ふつうに生活するのに困らないくらいの学力があればいい」48%。「学校生活が楽しければ、成績にはこだわらない」は26%と少数派。】(図2－4、図2－5)

Q13　あなたは次のように思うことがありますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

すでにみたように(図2－2、P.44参照)、高校生の大半は少なくとも中位以上の成績をとりたいと考えていた。高校生の成績アスピレーションはかなり高いと考えられる。そこで、このとりたい成績について、いますこし質的な設問を設定して成績、学力についての希望を尋ねてみた。

5つの選択肢について回答を多い順に並べると次のようになる。

①(名門大学志向)できるだけいい大学に入れるよう、成績を上げたい＝54%

②(ふつうの生活志向)将来ふつうに生活するのに困らないくらいの学力があればいい＝48%

③(大学、短大入学志向)どこかの大学・短大に入れる学力があればいい＝34%

④(学校生活エンジョイ志向)学校生活が楽しければ、成績にはこだわらない＝26%

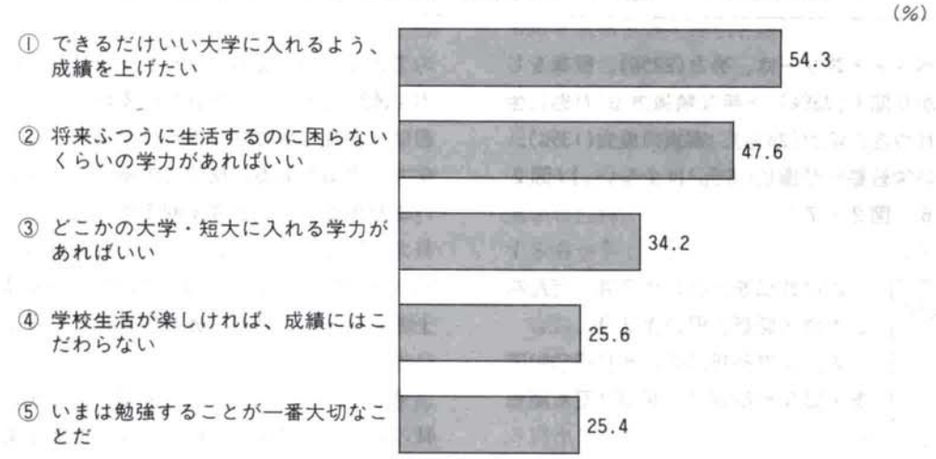
⑤(勉強本意志向)いまは勉強することが一番大切なことだ＝25%

現在の生活の中で勉強が一番大切だとする勉強本意型は、4人に1人であり、決して多数派とはいえない。高校生の多くにとって、勉強は相対的な意味での重要性しかもっていないと考えられていることがわかる。とはいえ、成績や学力にはこだわっていないというわけではない。学校生活が楽しければ成績にはこだわらないという学校生活エンジョイ志向は、やはり26%と少数派である。

それでは、どの程度の成績や学力が必要なのか。回答の中でもっとも多かったのは「できるだけいい大学に入れるよう、成績を上げたい」とする名門大学志向であり、これに「将来ふつうに生活するのに困らないくらいの学力」と「どこかの大学・短大に入れる学力」が続く。これをみる限り、名門大学への入学や将来のふつうの生活を目的とした、成績、学力の手段的側面が強く意識されている。

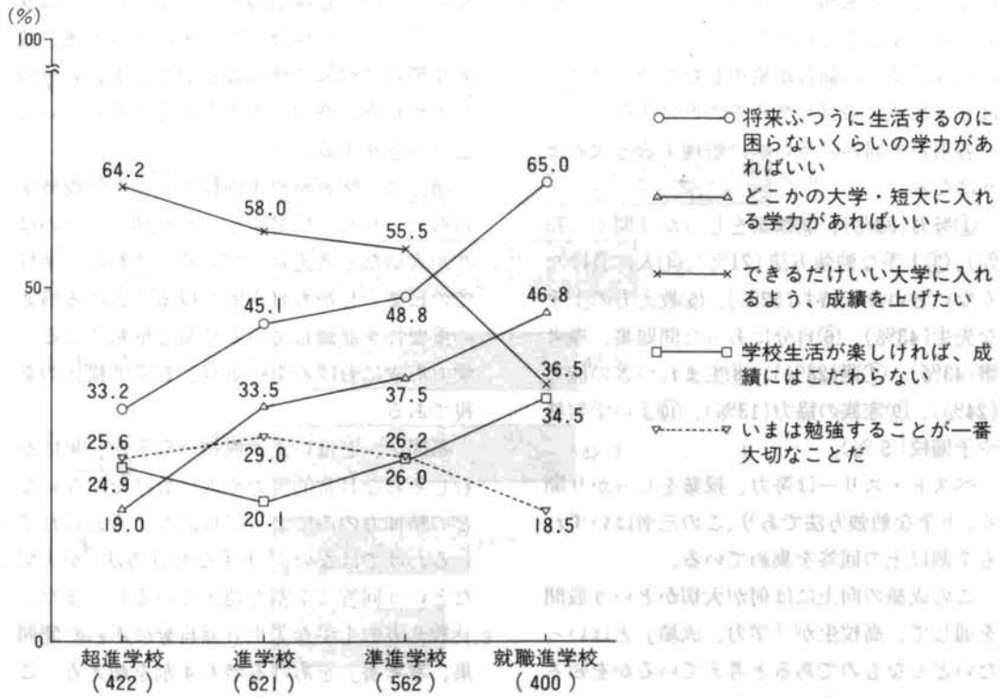
これらの結果を属性別にみると、もっとも目立つのが進学状況による意識の差異である。ことに超進学校と就職進学校が顕著な対比をみせている。超進学校では名門大学志向が強く、「将来ふつうに生活するのに困らないくらいの学力があればいい」が少ない。逆に就職進学校では後者の「ふつうの生活志向」が多く、またそもそも「学校生活が楽しければ、成績にはこだわらない」タイプが相対的に多い。学力や成績に対する構えは、それを量的な水準という角度からだけみているとあまり明確ではないが、このように進学状況によって鋭い分化をみせている。

図2－4　成績・学力観



注)サンプル数は2005人。

図2－5　進学状況別にみた成績・学力観



注)(　)内はサンプル数。